

まちのくすりやさん 第37号

今回のおはなし

「光線過敏症、服用薬に注意！」

ザ・タバコ

Q&A



光線過敏症、服用薬に注意！

日差しがそれほど強くなくても、皮膚が赤くなったり、かゆくなったりしたら、抗生物質の服用や化粧品が原因で起こる光線過敏症かもしれません。

光線過敏症は、日光アレルギーとも呼ばれ、日光によって引き起こされる免疫システムの反応です。日光じんましん、化学物質による光線過敏、多形日光疹などがあり、昼間日光を浴びた日の夜や次の日に、肌が露出している顔やうなじ、手足で皮膚の赤みや炎症などが起きます。

これらの症状は遺伝するといえます。中でも、多形日光疹は、日光に関する皮膚のトラブルとして最も多いです。女性や日光を浴びる機会が少ない人に多く見られる症状で、現時点では原因不明です。

また、泌尿器の病気の治療に使われるニューキノロン系の抗生物質や高血圧治療薬、利尿剤や鎮痛剤などを長時間飲んでいると、ある日突然症状がでることがあります。特に、腎臓や心臓などのほかの病気の治療をしている患者に多いと指摘するドクターもいます。

化粧品や貼り薬など、肌に直接塗るものが原因になることもあります。

また、レモン、パセリ、ライムなどは、紫外線に過敏になる原因の化学物質が多くふくまれているので、肌に直接塗って日光を浴びると、症状がでることもあります。

治療としては、かゆみ止めやステロイドの塗り薬を使用します。また、原因と疑われる薬は、医師と相談して、他の薬に変えてもらうことも必要です。他に、紫外線を遮断する衣類を着るのも有効です。症状がひどいと、ステロイドの飲み薬を服用したり、入院したりすることもあります。

光線過敏症の特徴

- ・ 皮膚が赤くなり、かゆみを伴う。
- ・ 炎症が起こり、皮膚が盛り上がることもある。
- ・ 抗生物質、高血圧の治療薬、利尿薬などを長期間服用していると、一部の人に起こる。
- ・ 化粧品や貼り薬が原因になることもある。
- ・ 肌の弱い人は起こりやすい。

御心配な方は、かかりつけの薬剤師にご相談下さい。

ガ・タバコ

愛煙家 妻の健康注意！！ 肺腺がんリスク 2倍に

夫に喫煙習慣がある妻は、夫が吸わない妻より、2倍も肺腺がんになりやすいことが厚生労働省研究班の調査で分かった。

約3万人を10年以上、追跡調査した。

受動喫煙による健康被害を示すもので、研究班は「予防には、他人の煙を避けることも重要」としている、

研究班は、本人はタバコを吸わない40歳～69歳の既婚女性約2万8千人を対象に平均13年間、健康状態を追跡調査した。

調査期間中に、109人が肺がんと診断された。このうち、夫に喫煙習慣がある56人と習慣がない25人を対象に、本人の年齢や飲酒量などを考慮して、夫のタバコの影響について比較検討した。

この結果、夫がタバコを吸っていた女性は、吸わない女性より、約2倍、肺がんの一種である肺腺がんになりやすいことがわかった。肺がん全体では、1.3倍のリスク。肺腺がんは肺の奥にできるがんで、女性に多い。空気中に広がる副流煙に多く含まれ、肺の奥まで届く、微小な粒子状物質の影響を受けやすいと考えられている。

肺腺がんの4割は、受動喫煙が原因だと考えられている。

研究班は、「妻がタバコを吸わなくても、家族のタバコの影響を受けやすく、家庭内の喫煙対策が必要」と分析している。



「アタマジラミ」が発生する季節になりました。シラミ駆除医薬品としてシャンプータイプの「スミスリンL」があります。第2類医薬品です。

使用法の注意事項としては、専用のすきくしを使用し、シャンプーして5分放置後洗い流し、3日に1度ずつ（2日おき）3～4回繰り返します。

髪の毛と髪の毛が接触して感染したり、タオル、くし、帽子等の共用等によりうつると考えられています。ご注意ください。

(社) 浦安市薬剤師会 〒279-0004 浦安市猫実1-2-5 健康センター内

Tel 047-355-6812 (月～金: 10～15時)

Fax 047-355-6810

メールアドレス toiawase@urayaku.jp

ホームページ <http://www.urayaku.jp/>